

# 葛飾区史編さんだより

270611

Vol.14

総務部 総務課 区史編さん担当係 03-5654-8444  
郷土と天文の博物館 03-3838-1101

葛飾区



平成 27 年 1 月 24 日(土)午前 10 時から、立石地区センターにて「昭和の葛飾を伺う会」が開催されました。多くの方にご参加いただき、立石にまつわる様々なお話を伺うことができました。



## 賑やかな立石

立石は昭和 7 年に葛飾区が誕生した時以来、区役所が置かれた土地で、名実ともに葛飾区の中心地でした。駅周辺を中心に昭和初期から賑やかな町でした。映画館、演芸場などが複数あったほか、町の一角の空き地ではサーカスの興業などもありました。

記憶に残る映画館としては富士館、金龍座、立石ミリオンなどがあります。また、戦後はボーリング場もあって昭和 40 年代の全盛期には予約をしても 3 時間待ちという賑わいでした。昭和 30 年代は、映画は娯楽の王様といわれ、1 週間に一度は立石で映画を見て立石仲見世の舟和の芋ようかんを食べるのが楽しみだったという方もいました。

今回の「伺う会」では、かつてカフェをやっていた家で育った方もご出席くださり、かつての「大人の社交場」の思い出をお話いただきました。

それによるとカフェとは、今の喫茶店とは違い、営業は夜だけでした。ジャズやクラシックなどの洋楽のレコードを店の中でかけ、ビール、ウイスキーを中心とするお酒やフルーツポンチなどを提供していました。店には女給がいて、エプロン姿でお客の相手をしていました。昭和 18 年頃、強制疎開によって建物が取り壊されるまで営業を続けていたそうです。



現在の立石仲見世商店街は戦後、いわゆる闇市で、フリーマーケットのような形をとっていたそうです。いろいろな業者が店を各自で広げ、権利金を地元の有力者に納入していました。

今回の「伺う会」の参加者には当時税務署に勤めていて、その有力者の方と面識を持っていた方もおられました。仲見世の有力者の方はこうした仕事にありがちな強面ではなく、とても紳士的な方だったということです。

立石商店街は現在の場所であり、奥戸へ行くバス通りの商店街とともに戦前から繁栄していました。毎月 7 のつく日が喜多向観音の縁日で、この日は露天商も出て大勢の人でたいへんな賑わいでした。

京成線の踏切に近い諏訪神社ではときおり草相撲の興業が行われ、土俵を作っては素人の力士が相撲を取るのを大勢の見物客が見ていました。立石 8 丁目の熊野神社では 4 月 1 日、2 日に植木市が行われこちらも大勢の人でにぎわいました。

一方で駅の近くに農地も残っていて、現在のイトヨーカドーのあたりは大きな蓮根の田んぼだったそうです。この蓮田に入って蓮の実を取ることが楽しみのひとつでした。現在の区役所があるあたりも大きな蓮田で、「ほっこみ」と呼ばれる池がありました。ここに鯉の稚魚を入れて、ミジンコを繁殖させると鯉がどんどん大きくなり、それを引き上げて食べる人もいました。また、こうした「ほっこみ」には食用ガエルが繁殖しました。不気味な声で鳴くことから最初はどんな化け物がいるのかとカイボリをする人もあったそうです。昭和 30 年代にはこうした「ほっこみ」を石炭ガラで埋め立て、そこには住居がたてられました。

昭和 30 年代には東立石(原・川端)に中小の工場が増え、多くの工場労働者が通勤するようになりまし。こうした人たちが立石の駅を使い、商店街の飲食店の繁栄を支えました。この人たちの中には清掃会社のように比較的早い時間に仕事が終わる人がかなりの割合でいました。このタイミングに合わせてお昼過ぎから営業を始める居酒屋が立石に何軒かあって、現在でも昼過ぎから行列を作っている店が残っています。



## 虫売り

立石には虫売りというちょっと変わった仕事をしている人もいました。

今回の「何う会」には、その同級生という方がご出席になりました。この虫売りとは各地の神社の祭りなどに出向いて、秋の鳴き声を楽しむ虫である鈴虫やクツワムシなどを売る商売です。この虫は農家に委託して集めてきてもらいます。千葉県の上総村というところには、その虫を集める農家の人たちが住んでいて、立石の人の依頼を受けて泊りがけで埼玉県の川越市、児玉郡のあたりまで虫を捕りに行きます。神社の境内などに泊り、何日もかけて集めた虫を立石の虫売りの人に卸します。

虫売りの商売は 8 月 15 日までで、そのあとは虫はすべて放してしまうのが習わしでした。

虫を集めた農家の人たちが住む上総村には「虫供養の碑」が立っています。

## 空襲

昭和 20 年 2 月 19 日、立石はB29 による空襲を受けました。この空襲は記録によると死者 24 名、負傷者 37 名と大きな被害を出しました。葛飾小学校、葛飾区役所(現かつしかシンフォニーヒルズ)も被災し、区役所は全焼しました。梅田(現立石4~6丁目と青戸 1・2 丁目の一部)付近にはたくさんの不発弾が落ち、戦後も処理におわれました。梅田付近は蓮田が多く、そのぬかるみに沈んで爆弾が爆発しにくかったようです。

当時、お花茶屋にあった高射砲陣地からの迎撃弾がB29 一機に命中し、空中分解して墜落したのはこのときのことです。この空襲で葛飾区役所は梅田小学校内に、のちに本田小学校内に移転しました。



## 中川の砂取り

中川は東京が都市開発されるときに用いられる建築用の砂を採取する場として砂取りが行われていました。たとえば三郷市彦糸付近ではそのために中川の川幅が 10 メートル近く広がってしまったといわれています。この砂取りをする業者の船が十隻ほど立石の南蔵院から本奥戸橋にかけて停泊していました。

現在のかんすけ児童公園付近にカンスケイリという水門があり、そこに砂を上げては山にしておき、運送業者が運んで行きました。